

経営比較分析表

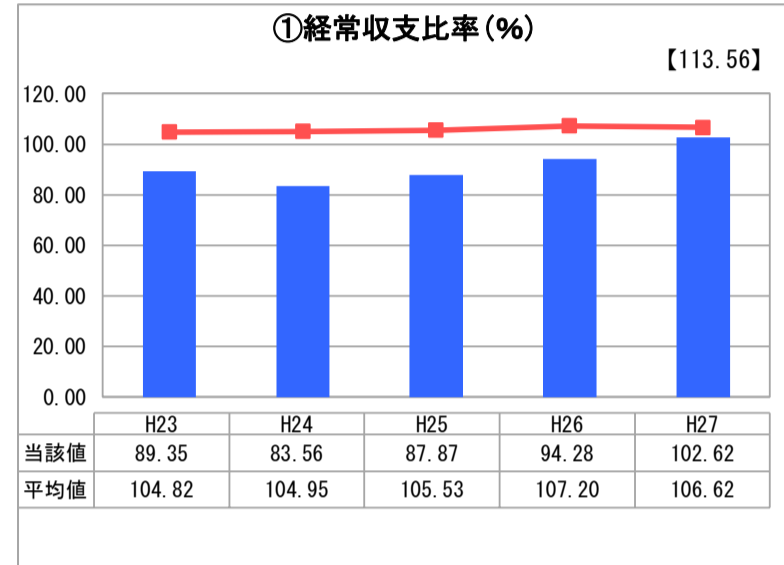
京都府 与謝野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	48.40	99.88	3,184

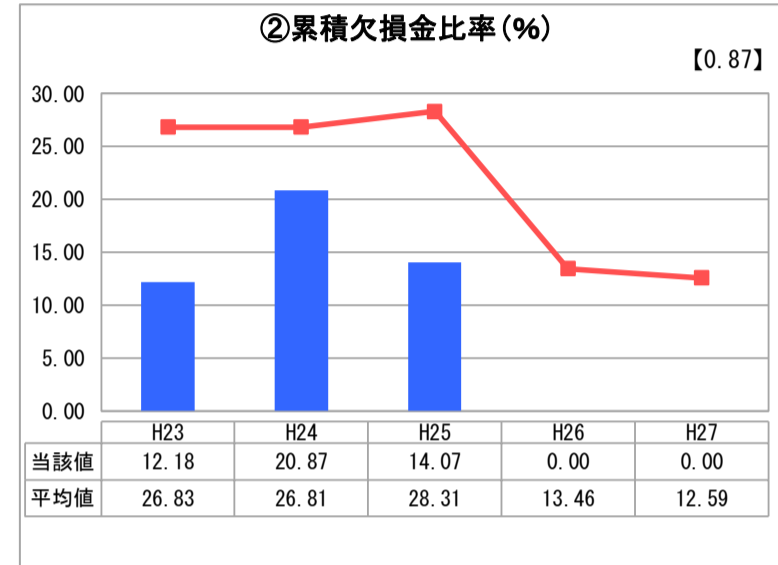
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
22,966	108.38	211.90
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
5,877	2.60	2,260.38

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成27年度全国平均

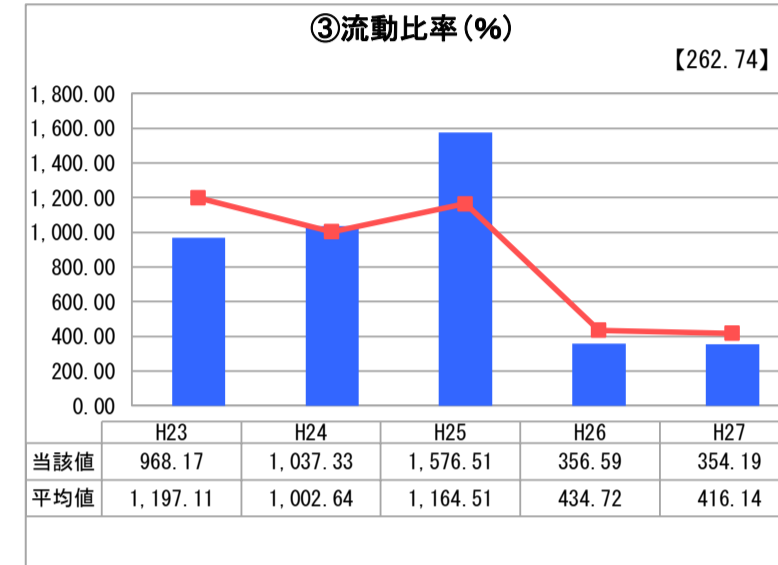
1. 経営の健全性・効率性



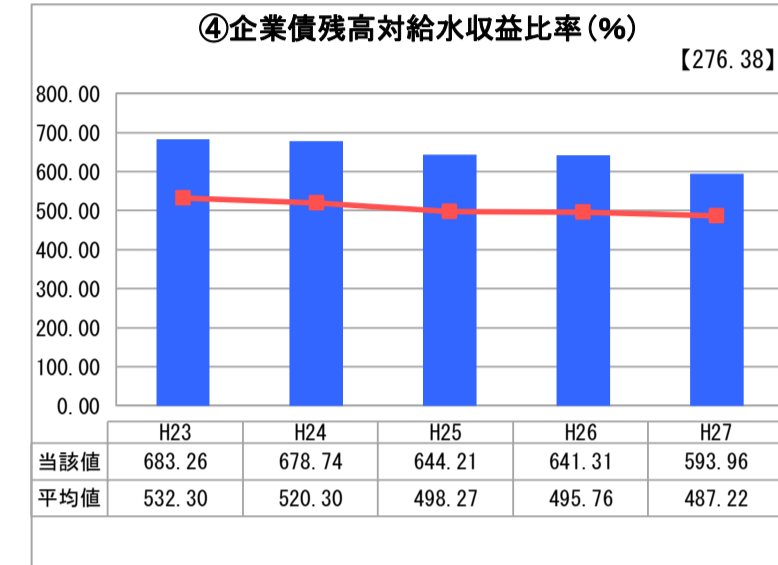
「経常損益」



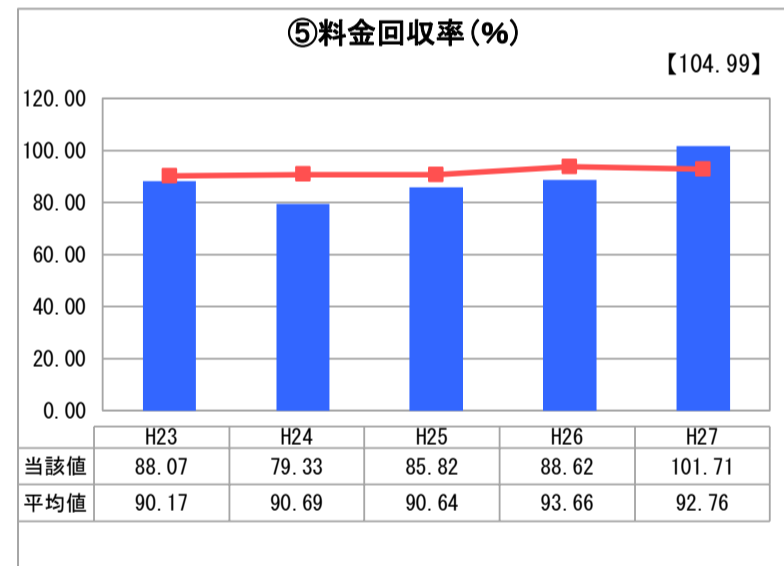
「累積欠損」



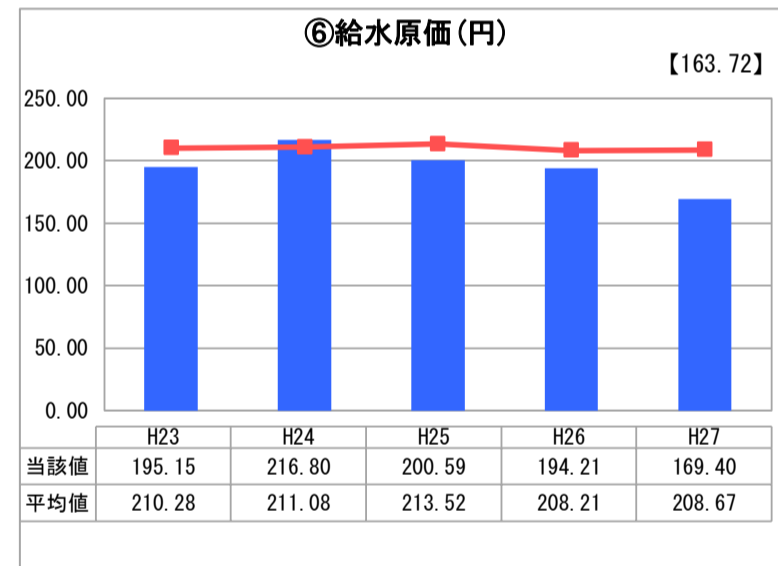
「支払能力」



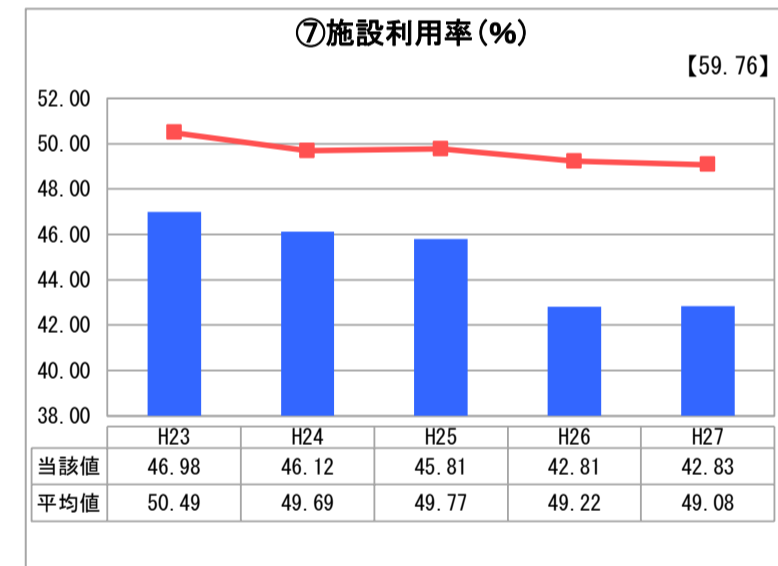
「債務残高」



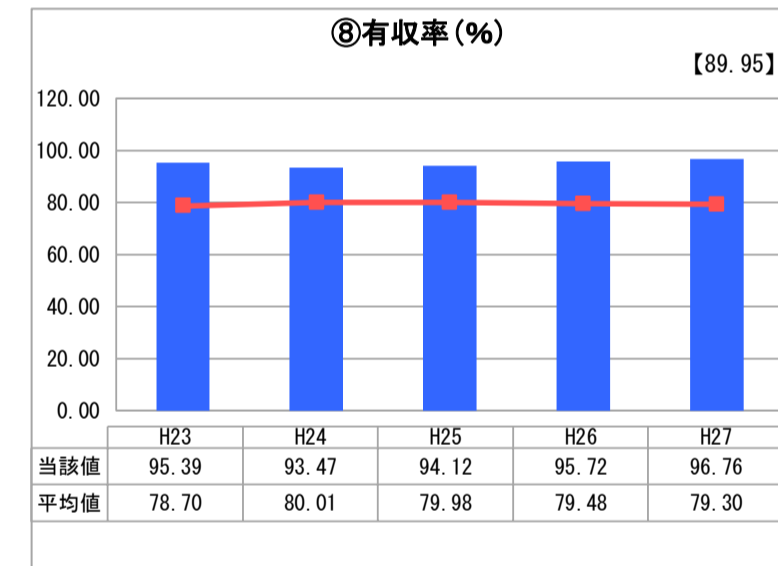
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

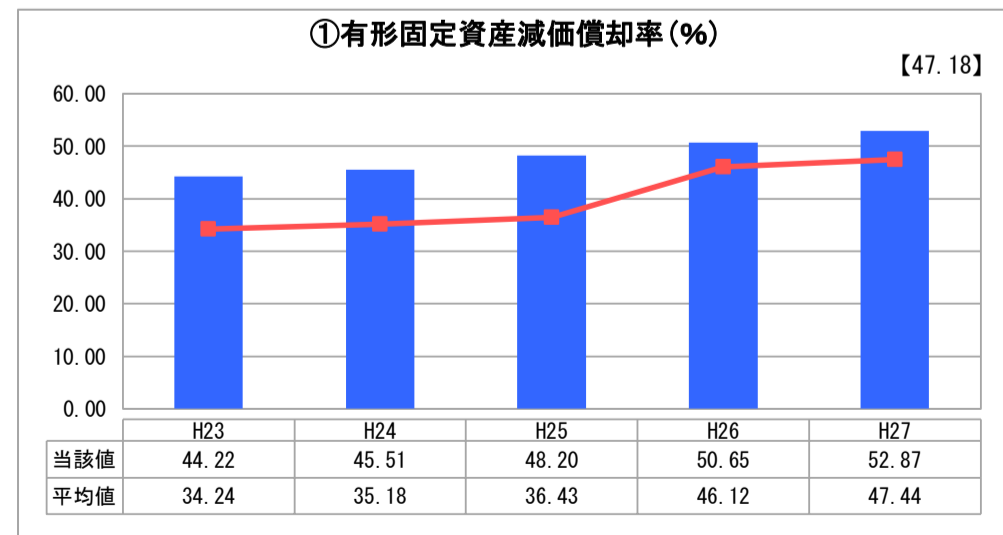


「施設の効率性」

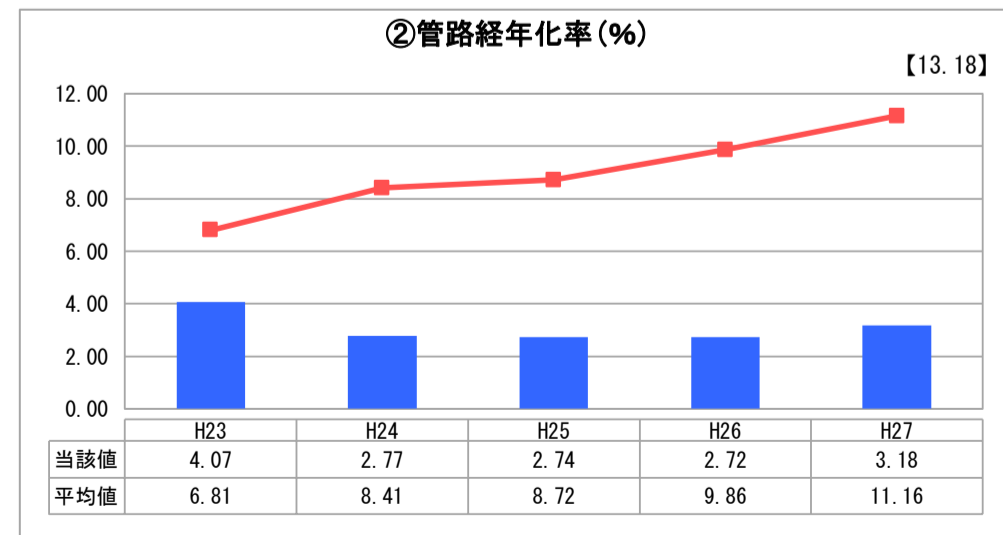


「供給した配水量の効率性」

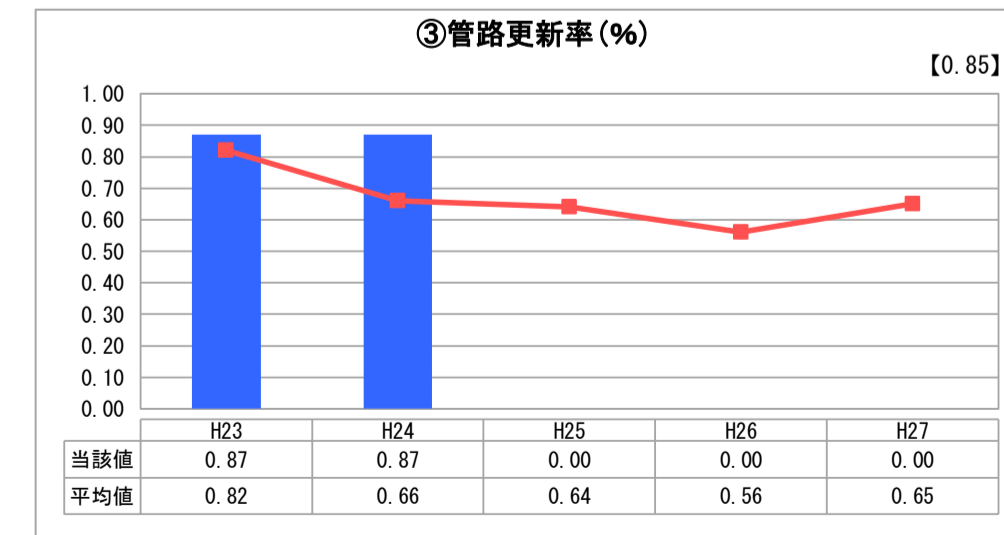
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
平成27年度では地方公営企業会計制度見直しにより発生した長期前受金戻入の影響と経費削減で経常利益が生じた。

②累積欠損金比率
平成26年度で地方公営企業会計制度見直しにより0%になった。

③流動比率
100%以上で短期債務に対して支払う現金等があり、負債を賅っている状況である。

④企業債残高対給水収益比率
類似団体平均値よりも高く、料金収入の水準を見直す必要がある。

⑤料金回収率
平成27年度では100%を上回ったが、適切な料金収入の確保が必要である。

⑥給水原価
大規模な建設改良事業が完了したことにより、支払利息と減価償却費もピークを過ぎ、今後は減少傾向にある。

⑦施設利用率
施設能力に対して50%以下の使用率であり、人口減少等で配水量が減少していることが原因である。

⑧有収率
類似団体平均値を上回っており、計画的に老朽配水管の布設替を行ってきた成果がでている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体平均値を上回っており、償却資産の減価償却が約50%完了した状況であり、近年比率が上昇傾向にあるため、計画に基づく着実な施設更新が必要である。

②管路経年化率
類似団体平均値を下回っており、計画的に老朽配水管の布設替を行ってきた成果がでている。

③管路更新率
平成25年度以降0%であるが、計画に基づく老朽配水管の布設替が平成24年度で完了したことによる。

全体総括

平成8年度から平成24年度にかけて浄水場等の施設改良、老朽配水管の布設替を計画的に行ってきたため、特に管路経年化率では類似団体平均値を下回り一定の成果がでている。

しかしながら、施設改良を行ってきた結果、減価償却費、企業債の支払利息等が著しく増加し、平成13年度から経常収支の赤字が続いており平成27年度では黒字に転じたものの、非常に厳しい経営状況である。

経常収支の赤字を将来的に解消し、安定した経営をするためには、適切な料金収入の確保が必要である。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。